

# Begleiten 104号



2018. 9. 9

## 宗教者と手をつないで核なき世界の実現を

ベグライテン世話人 高野 真光

9月に入っていくぶん過ごしやすくなってきましたが、今年の夏は40度を超す殺人的といってもおかしくない暑さが各地で記録され、酷暑という表現がピッタリでした。この暑さで熱中症による搬送者も相次ぎ、熱中症による死者は7月1ヶ月間で124人に上りました。来年以降の夏がどうなるのか、思いやられます。折しも、再来年の夏には東京オリンピックが開催される予定で、果たしてこんな熱暑の中で開催して良いのか、改めてオリンピック開催に疑問を呈する声が多く聞かれました。

この夏は、暑さに加えて豪雨や台風による災害も絶えませんでした。7月には西日本全域が豪雨災害に見舞われ、数多くの被災者がいまだに自宅に戻れないままとなっています。そのような未曾有とも言える大災害で甚大な被害が予想されている中で、安倍首相を始めとする自民党の国会議員たちが宴会を催しました。今月行われる自民党総裁選に備えた安倍首相のための会合であり、国民の生命財産より自らの総裁三選を重視するような安倍首相の姿勢に強い批判が集まりました。

そんな政治の体たらくの一方で、人々に感動を与えてくれる出来事もありました。山口県周防大島町で帰省中に行方不明となった藤本理稀ちゃんを、ボランティアで捜索に参加した尾畠春夫さんが3日ぶりに発見したニュースです。尾畠さんは、これまでボランティアとして全国の被災地支援や行方不明者の捜索に参加してきましたが、その経験が生かされたといいます。心に残ったのは、尾畠さんの座右の銘だという「刻石流水」。「受けた恩義はどんな小さくても心の石に刻み、施したことは水に流す」という意味です。荒みきった政治にうんざりした国民にとって、すがすがしさを感じさせてくれる出来事でした。

歴史的な南北、米朝首脳会談から3ヶ月経ちました。首脳会談が実現したことで朝鮮半島の平和に一步近づいたものの、その後具体的な進展は見られません。一方の当事者であるアメリカでは、トランプ大統領をめぐるロシア疑惑が新たな展開を見せ、アメリカ政治の先行きも不透明さを増しています。与党共和党の重鎮だったマケイン上院議員が亡くなったことも、トランプ大統領への抑えが効かなくなるとして、不安定要因に数える報道もありました。そのような事情もあって米朝の間での事態の進展は捗々しくないものの、南北の間では、再度の首脳会談へ向けての準備も進められています。極東アジアの安定と平和の構築は、世界の平和と不可分です。この動きを後戻りさせるわけにはいきません。しっかりと注視していかねばならないと思います。

8月6日の広島原爆の日、広島を訪れた安倍首相は、核兵器禁止条約に参加しないという日本の立場を改めて表明しました。被爆者を始め、心ある国民からは強い怒りの声があげられました。安倍首相は、「我が国は、非核三原則を堅持しつつ、粘り強く双方の橋渡しに努め、国際社会の取

り組みを主導していく決意だ」と述べましたが、核廃絶への具体的な行動プランも伴わない言葉だけの「決意」の何と白々しく響くことでしょうか。本音では核廃絶に背を向けている安倍首相の「国際社会の取り組みを主導」などという発言は、文字通り噴飯ものです。

今月は、今後の日本の国政を左右する二つの重要な選挙が控えています。自民党総裁選と沖縄県知事選挙です。自民党総裁選挙は、安倍晋三総裁と石破茂元幹事長の一騎打ちとなりました。国会議員の大半を取り込んだ安倍氏の優勢が伝えられています。この状況は変わらないでしょう。この選挙の前哨戦で、安倍首相の公人としての資質を疑わせるいくつかの言動が表れました。一つは、石破氏が選挙スローガンとして掲げた「公正、正直」を安倍首相への個人攻撃だとして、安倍陣営から使用を止めさせようという動きが出たことです。やることがあまりにもえげつない。しかしこれは、安倍首相が「不公正で嘘つきだ」ということを認めたも同然なのですが、そんなことにも気づかない愚かな人間たちが安倍首相の周辺には多いということなのでしょう。もう一つ驚いたのは、安倍氏の属する細田派が、所属議員に安倍首相支持の誓約書を書かせることを決めたということです。まるでヤクザのようなやり方です。安倍首相は自分の身内さえ信じられないような疑心暗鬼に陥っているのでしょうか。公党の選挙に際して、あって良い事ではないでしょう。さらには、石破氏が公開討論を求めているのに対して、安倍陣営ではこれを極力避けようとしています。現職の総裁の取るべき態度とは思えません。議論から逃げるような人間にそもそも総裁選挙に立候補する資格はないのではないのでしょうか。投票権のある自民党員には、こうした事実を直視して投票してもらいたいと思います。

一方、沖縄県知事選挙は、翁長前知事の後継として、玉城デニー氏がオール沖縄の候補として立候補したことで、大いに盛り上がりを見せています。この選挙の結果は、辺野古の基地建設のみならず、今後の国政の行方にも大きな影響を与えるだけに、何としても玉城氏に当選してもらいたいと思います。沖縄県についてのある方は、ぜひ玉城候補を応援していただきたいと思います。

自民党総裁選に関して見逃せないのは、安倍首相の改憲への前のめりの姿勢に一段と拍車がかかってきたことです。安倍首相は、自民党の会合で「憲法改正を発議しないというのは、国会議員の怠慢ではないか」とまで言って、改憲を煽っています。しかしこれは、公務員の憲法尊重擁護義務に違反する疑いが濃厚です。これまでの言動に照らして考えれば、安倍首相は立憲主義に基づく近代的な憲法が大嫌いなのです。そんな歪んだ憲法観の持ち主に改憲をさせれば、末代まで悔いを残すことになります。

そのような事態にさせてはならないのは当然のことですが、それを阻止するためにベグライテンでは、「安倍改憲 NO! 憲法を生かす全国統一署名」(3,000万署名)への取り組みに力を入れています。立憲主義に基づく民主的な政治を守り、戦争のない世界、一人ひとりの人権が尊重される暮らしやすい社会を目指す取り組みです。ベグライテンのテーマである「ケアと公共」にも関わる重要な署名活動です。メールやSNSを使うなどして、全員が協力して署名運動を盛り上げていきましょう。

ベグライテンでは、今年20日、宗教者と市民が手をつないで核なき世界の実現を目指すための大規模な取り組みを計画しています。核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)の川崎哲さんと、核

兵器禁止に積極的な日本の宗教界の識者を迎えてのシンポジウムです。シンポジウムのタイトルは「核兵器禁止条約と日本の宗教の役割」です。

2017年7月に国連で開催された核兵器禁止条約交渉会議において、核兵器禁止条約が122か国・地域の賛成多数により採択されたことを踏まえ、この年のノーベル平和賞は、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）に授与されました。日本は長年にわたって唯一の被爆国として核兵器に反対してきた経緯があるにも拘らず、この条約に署名していません。しかし、日本の宗教界では数多くの宗教者が核兵器禁止条約の推進のために尽力してきました。今後も、多様な宗教勢力の声を反映しつつ、核兵器禁止条約を前進させていくことは現実的、かつ欠かせない取り組みです。このシンポジウムでは、宗教界が核廃絶への取り組みを通じて世界平和に貢献していく可能性について川崎氏とともに考えます。

詳細はすでにお知らせしてありますが、シンポジウムを実りあるものにするために、みなさんの友人知人にも声を掛けて頂き、多くの方が参加できるようご尽力をお願いします。添付のチラシやベグライテンのHP、FBなどを利用して、情報の転送・転載・拡散をよろしくお願いします。

障害者雇用をめぐる省庁の水増し問題など、行政をめぐるうんざりするほどの不祥事が続いています。8月末には、経産省で、「公文書に政治家の発言を残さない」などの驚くべき指示が行われていたことが明らかになりました。後から問題になりそうな案件の記録を残さないということでしょう。これは、犯罪組織の発想であり、「歴史に対する犯罪」だと言ってもおかしくありません。「永続敗戦論」の著者で京都精華大学講師の白井聡氏は、これを「統治の崩壊」という表現で批判していましたが、その通りだと思います。「統治の崩壊」とは、即ち「国家の崩壊」を意味します。やりたい放題の安倍政権のもとで、日本の危機はそこまで深刻な状況に陥っているのです。改めて、国民一人ひとりができることをしていかなければならないという思いが強まります。

## ◇シンポジウム「核兵器禁止条約と日本の宗教の役割」◇

2017年のノーベル平和賞は、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）が受賞しました。これは、この年の7月に国連で開催された核兵器禁止条約交渉会議において、核兵器禁止条約が122か国・地域の賛成多数により採択されたことを踏まえたものです。日本は長年にわたって唯一の被爆国として核兵器に反対してきた経緯があつたにもかかわらず、この条約に署名していません。

しかし、日本の宗教界には核兵器禁止条約の推進のために尽力してきた人々が多数存在しますし、今後も、多様な宗教勢力の声を反映しつつ、核兵器禁止条約を前進させていくことが望まれます。このシンポジウムでは、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）の川崎哲氏とともに宗教界が世界平和に貢献していく可能性について考えていきたいと思ひます。

【日時】2018年9月20日(木) 18時30分～20時30分

【場所】上智大学 10号館 講堂 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

[http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access\\_yotsuya](http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access_yotsuya)

(JR 中央線、東京メトロ丸ノ内線・南北線 四ッ谷駅 麴町口・赤坂口から徒歩5分)

【参加費】入場無料 どなたでも参加できます。事前申し込みは不要です。

## 【シンポジスト】

島菌 進（上智大学大学院実践宗教学研究科教授、上智大学グリーンケア研究所長）  
川崎 哲（核兵器廃絶国際キャンペーン国際運営委員、ピースボート共同代表）  
神谷 昌道（立正佼成会軍縮問題アドバイザー）  
戸松 義晴（浄土宗心光院住職、全日本仏教会事務総長）  
光延 一郎（カトリック司祭、上智大学神学部教授）

## 【主催・問合せ先】

上智大学大学院 実践宗教学研究科(03-3238-4699) ベグライテン(090-9146-6667 関根)  
ミシュカの森(ANA71805@nifty.com 入江)【後援】 日本カトリック正義と平和協議会

## ◇ベグライテン 10月例会～秋山正子さんをお迎えして～◇

### 「地域を耕し続けて～在宅ケアの現場からの地域づくり～」

訪問看護師としての豊富なご経験をもとに、健康や生活にかかわるさまざまな相談に応じる「暮らしの保健室」や、がんになった人や家族が落ち着いた空間のなかで気軽に安心してサポートを受けられる「マギーズ東京」の設立など、地域のなかで在宅ケアを支える場を多方面で展開されてきている秋山正子さんから、これまでの活動とそこからみえるケアのあり方などについてお話をうかがい、「ケアとは何か」を一緒に考えてみたいと思います。

【日時】 10月6日(土) 14:00～16:30

【場所】 上智大学上智大学 6号館 3F 304 会議室〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1  
[http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access\\_yotsuya](http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access_yotsuya)

(JR 中央線、東京メトロ丸ノ内線・南北線 四ッ谷駅 麴町口・赤坂口から徒歩5分)

【講師】 秋山 正子さん（㈱ケアーズ 白十字訪問看護ステーション統括所長、暮らしの保健室室長、NPO 法人白十字在宅ボランティアの会理事長、認定 NPO 法人 maggie' s tokyo 共同代表センター長）

【略歴】 1973年聖路加看護大学卒業。関西にて臨床及び看護教育に従事。1992年から東京都新宿区で訪問看護を開始。現在は、新宿区及び東久留米市で訪問看護・居宅介護支援・訪問介護の3事業を展開。2011年、「暮らしの保健室」、2015年、看護小規模多機能（複合型）「坂町ミモザの家」を開設。2016年10月には、豊洲にがん患者と家族のための相談支援の場「マギーズ東京」をオープン。

【著書】 『つながる・ささえる・つくりだす 在宅現場の地域包括ケア』（医学書院）、『家で死ぬこと考えたことありますか？』（保健同人社）、『「在宅ケアのはぐくむ力』（医学書院）、『在宅ケアのつながる力』（医学書院）、『在宅ケアの不思議な力』（医学書院） など

【参加費】 1,000円（学生、障害者・生保者は、500円）（終了後、講師を囲んで懇親会を予定しています。各自が飲食した分を、お支払いいただきます。）

【主催】 ベグライテン <https://www.facebook.com/begleiten2> <http://begleiten.org/>  
ミシュカの森 <https://www.facebook.com/mforest> 【共催】 ケアと公共を学ぶ会

【問い合わせ】 関根 090-9146-6667 入江 ANA71805@nifty.com



## ◇公共哲学入門 ～より良き公正な社会のために◇

### 立憲主義と人権～その歴史と現状を皆様と共に考える

【日時】 9月24日（月・祝）14:00～16:30 【場所】 上智大学2号館407教室

【講師】 山脇直司さん（星槎大学副学長）

【略歴】 1949年3月 青森県生まれ

一橋大学経済学部、上智大学大学院哲学研究科を経て、1982年ミュンヘン大学哲学博士。  
1988年4月から2013年3月まで、東京大学教養学部・大学院総合文化研究科教員。  
2013年4月以降、通信制の星槎大学教授、現在同副学長

公共哲学とは、「市民的な連帯や共感、批判的な相互の討論にもとづいて公共性の蘇生をめざし、学際的な観点に立って、人々に社会的な活動の参加や貢献を呼びかけようとする実践的哲学（『広辞苑』第6版から）」または、「より善き公正な社会を追究しつつ、現下で起こっている公共的問題

(public issues)を市民(the public)と共に論考する実践的哲学」(山脇直司)と定義されます。そういう意味での公共哲学には、功利主義、リベラリズムなど様々な潮流がありますが、私は特に、人権、立憲主義、民主主義を重んじる立場を採ります。

第一回目は、そうした立場から、立憲主義と人権について、私からその歴史、現状、課題をパワポとレジュメを使いながらお話しし、皆様と公共的対話・質疑を行いたいと思います。

今後の日程とテーマは以下です。

第2回 メディアと民主主義～世論操作か世論形成か

第3回 権力と正義～その正当性を吟味する

第4回 共生社会の実現ために～ケアと公共を繋ぐ

【参加費】 1,000円（学生、障害者・生保者は、500円）

（終了後、講師を囲んで懇親会を予定しています。各自が飲食した分を、お支払いいただきます。）

【主催】 ベグライテン <https://www.facebook.com/begleiten2> <http://begleiten.org/>

ミシュカの森 <https://www.facebook.com/mforest> 【共催】 ケアと公共を学ぶ会

【問い合わせ】 関根 090-9146-6667

入江 ANA71805@nifty.com

◇ソフィア・コミュニティ・カレッジ 2018 年度 秋期講座◇

人間らしく生きる～不安定化し、軋み始めた世界—北東アジアに平和は来るのか～

板門店で南北首脳会談が実現し、東アジアに平和への希望が出てきた一方で、最重要な米朝関係は今後も曲折が予想されます。アメリカはさらにイランとの核合意からの離脱、大使館のエルサレム移転などで紛争地域に不安定化をもたらしてもいます。それでも核廃絶では、北朝鮮の核実験場の閉鎖に先だって、国連で核兵器禁止条約が採択され、それに貢献した国際 NGO の ICAN がノーベル平和賞を受賞しました。

国内では安倍長期政権が、公私混同の乱暴な政治手法で日本の国を危うくしていますが、議会制民主主義を踏みにじるその態度への批判も大きくなってきました。経済ではアベノミクスでも格差はいっこうに縮まらず、働き方改革法案のずさんさもあいまってむしろ民主主義を取り戻す市民運動に希望を見出す人も増えています。平和が芽ばえはじめた一方で、世界はさらに不安定化し、きしみはじめてもいるようです。私たちが人間らしく生きられる社会の原理とは何でしょうか？各界の有識者にご意見を伺い、受講者の皆さまと共に考える機会にしたいと思います。

【開講期間】2018年10月10日から 水曜日 19:00～20:30 全11回定員100名

【受講料】¥29,700 ●テキスト：講師よりプリント配布(実費徴収)※全回分500円

【受講申込み】11月7日(水)まで ※本講座は講座変更できません。

【コーディネーター・講師】大橋容一郎 上智大学文学部哲学科教授

10/10 大橋 容一郎(上智大学文学部哲学科教授) 市民的公共性について(講座趣旨説明を含む)

10/17 孫崎 亨(東アジア共同体研究所理事・所長)

激変する国際情勢～北東アジアは安定に向かうのか～

10/24 宇都宮 健児(元日本弁護士連合会会長)

日本と韓国、市民運動と自治体～ソウル市の改革と韓国の市民運動に学ぶ～

11/07 水野 和夫(法政大学法学部教授) 日本経済の行方～拡大する格差～

11/14 前川 喜平(現代教育行政研究会代表、前文部科学省事務次官) 日本の行政を立て直す

11/21 畠山 澄子(ピースポートジャパンスタッフ)

若者の立場から～被爆者と世界へ：核兵器禁止条約までの10年とこれから～

12/05 伊藤 真(伊藤塾塾長)

自民党改憲案をめぐって～護憲的改憲論にも触れながら～

12/12 上野 千鶴子(東京大学名誉教授、認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク理事長)

セクハラ、DV、家事労働：女性の経験の再定義

12/19 アーサー・ビナード(詩人) 文化人はいま

1/9 金平 茂紀(TBS「報道特集」キャスター、早稲田大学大学院客員教授)

ジャーナリズムの変質と社会の変容

1/16 島菌 進(上智大学大学院実践宗教学研究科委員長) 天皇崇敬と近代日本の倫理性

【主催申し込み】上智上智大学公開学習センター TEL 03-3238-3552

公開講座 オンライン予約 検索してください。

## ◇憲法カフェ@四ツ谷のご案内◇

### 「日米地位協定」の改定を迫る意味は？

米軍機から機材が落下してもお構いなし、オスプレイは日本全国飛び放題、米軍の治外法権「横田空域」のため、民間機が危険な飛行ルートを強いられている、・・・すべて「安保条約」のもとで運用されている「日米地位協定」で定められています。

毎月、隔週で開催されている日米の高官からなる「日米合同委員会」。ここで米軍基地問題、辺野古に新基地を建設する問題など、憲法の制約をこえて極秘裏に話し合われています。

日本が米国に従属しているこの構造こそ、日本国憲法の上に「安保条約」、「日米地位協定」があるといわれるゆえんです。

首相の＜悲願の改憲＞は、総裁選で安倍首相が3選を果たすと猛烈な勢いで＜9条に自衛隊を明記する改憲案＞を強引に押し進めてくることでしょう。

日米との軍事同盟の実態と改憲の関係を学んで、＜安倍改憲にNOの3000万署名＞を達成し、改憲の動きを封じることがいま求められています。ご家族、友人を誘ってご参加ください。

### ベグライテン 第2期 第18回「憲法カフェ」

【日時】2018年9月27日（木）18:30—21:00

【テーマ】“日米地位協定“の改定とは—9条改憲とのからみで—

【場所】東京法律事務所 1階会議室

アクセス：JR 四谷駅・四谷口前（しんみち通り入口横のファミリーマートの隣）

Tel:03-3355-0611 <http://www.tokyo-law.gr.jp/about/location.html>

- ・ 提題者：岸 松江 弁護士(東京法律事務所)  
森 正樹 さん(ベグライテン世話人)
- ・ 司 会：関根 和彦 さん(ベグライテン世話人)
- ・ 参加費：1人500円+印刷代(100円程度) (参加費は提題者への謝礼含む)
- ・ 飲み物は各自持参してください。
- ・ 連絡/問合せ先：大塩：veu03273@nifty.ne.jp 関根：090-9146-6667

## ◇花の谷クリニック訪問のお誘い◇

千葉県南房総で一般内科外来診療、緩和ケア病棟、在宅ケアの3つを連携させ、ホスピス精神に基づく活動で住民の健康を守っている「花の谷クリニック」を訪問します。

院長の伊藤真美先生がご説明、ご案内して下さいます。参加を希望される方は、下記によりお申し込みください。先着順です。

【日時】 9月22日(土) 14:00~16:30

【集合】 13:30 前後に内房線千倉駅前集合。千倉駅前からタクシー相乗りで行きます。

【アクセス】 千葉県南房総市千倉町白子2446    Tel: 0470-44-5363    <http://hananotani.jp/>

・JR内房線千倉駅から車で5分(タクシー有) 徒歩15分

・東京方面からの高速バス「なのはな13号」 東京駅八重洲南口 11:20 発 千倉駅前 13:32 着

【定員】 20名(先着順です)    【参加費】 500円(現地徴収)

【申し込み】 氏名(ふりがな)、〒、住所、電話、携帯、メールアドレスを記入し、次の方法でお申し込みください。

※フォーマットによる申し込み    : <https://goo.gl/forms/Ou70IxG6cR4btWGi1>

※Faxによる申し込み: 050-3737-2636 後藤 哲男 宛て

(いただいた個人情報は、名簿化して訪問先に提出するほか、本訪問に必要な連絡に使用します。それ以外の目的に使用することはありません。)

\*スープのよろずや「花」 <http://hananotani.jp/soup/>

13:30に、花の谷クリニック内にある、スープのよろずや「花」に集合して、食事する(スープランチ 600円) ことができます。

ご希望の方はその旨、併記してお申し込みください。集計して人数を報告しておきます。

【問合せ先】 TEL: 080-2251-0761 (後藤 哲男)

## 「ミシュカの森」 「慶應義塾大学」 共催による上映会

### いせフィルム「やさしくなあに～奈緒ちゃんと家族の35年～」

慶應義塾大学との共催により、慶應大学の三田キャンパスで、上映会を開催することになりました。上映する映画は、てんかんと知的ハンディキャップをあわせ持つ少女・奈緒ちゃんの成長と、彼女の家族を追ったドキュメンタリー「奈緒ちゃんシリーズ」の4作目の最新作「やさしくなあに～奈緒ちゃんと家族の35年～」です。ヒューマンドキュメンタリー映画《2017年 キネマ旬報文化映画ベストテン3位》の傑作、是非この機会にご覧下さい。

【日時】 10月20日(土) 2時～4時半    【場所】 慶應義塾大学 三田キャンパス 西館ホール

【費用】 無料 どなたでもお越しになれます。お気軽にどうぞ。

【映画内容】

「奈緒ちゃん」(1995)、「ぴぐれっと」(2002)、「ありがとう 『奈緒ちゃん』 自立への25年」に続くシリーズ第4弾。83年、奈緒ちゃん8歳の正月に奈緒ちゃんの伯父でもあるドキュメンタリー作家の伊勢真一監督はカメラを回し始めました。「この子は長く生きられない」と医者から宣告された奈緒ちゃんの「元気な姿を撮る」という課題で撮り続けた結果、奈緒ちゃんはどんどん元気になり、そして奈緒ちゃんを育てながら彼女のお母さんも元気になっていっていきました。4作目の最新作では奈緒ちゃんと家族に寄り添い続けた35年間は描かれています。



そばにいるときも、いないときも、続いている家族の物語・・・

障がいもちながらも天真爛漫な長女、奈緒ちゃん。やさしくて働き者のお母さん。お酒とゴルフが大好きなお父さん。スポーツ万能の弟。笑ったり泣いたりしながら営まれる家族の日々を、カメラは35年間、丁寧に記録し続けました。…どこかで見たことのあるような台所やリビング、いつもの会話いつものやりとり。そして、家族の誰かや自分の悩み…『やさしくなあと』は家族の映画です。観た人はきっと、自分自身の家族との日々を思い返すでしょう。

監督 伊勢真一（ビデオメッセージを頂いています）

出演 西村奈緒／西村記一／西村信子／西村大乗／内田三郎／プーちゃん／「ぴぐれっと」のみんな  
2017年／日本／110分 配給 いせフィルム



## ◆◆◆2018年7～8月の講演会・セミナー・カフェ・訪問会の報告・感想◆◆◆

### ◆7月公共例会のご報告◆

【講師】青井 未帆 さん（学習院大学大学院 法務研究科教授）

【テーマ】平和主義は維持されるのか？ ～護憲的改憲論などにも触れながら～

【日時】2018年7月7日(土)14:00～16:30 【場所】上智大学 6号館 3F 304教室

【参加費】千円(学生/障害・生保証のある方は、500円)

【主催】ベグライテン HP <http://begleiten.org/> FB <https://www.facebook.com/begleiten2/>

ミシュカの森 FB <https://www.facebook.com/mforest> 【共催】ケアと公共を学ぶ会

公文書改ざん問題や国会での虚偽答弁によって、わたし達の多くは日本の政治がここまでうまく働いていないのかと驚かされ無力感に苛まれていた折、青井先生のお話には大いに励まされました。

今回の講演会で特筆すべきは参加者中に学生さんが10人もいたこと。若い方々が憲法問題に深い関心を寄せてくださったことに感謝します。

### ◆7月例会のご報告◆

【講師】上野 千鶴子さん（東京大学名誉教授、認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク理事長）

【テーマ】#MeToo から #WeToo へ もうわたしたちはガマンしない

【日時】7月26日(木)18:30～20:30 【場所】上智大学 中央図書館 8F 821会議室

【参加費】千円(学生/障害・生保証のある方は、500円)

【主催】ベグライテン・ミシュカの森【共催】ケアと公共を学ぶ会

ハリウッドでもカンヌでも#MeTooの動きは活発なのに、日本ではなぜ盛り上がらないの？と嘆く人たちがいますが、時代は確実に大きく動いていることを実感する上野千鶴子先生のお話でした。

広報の時間がなかったにも関わらず、上野千鶴子先生のお話を聞くためにたくさんの方が参集し、図書館が満席になりました。とりわけ、ツイッターの拡散を通して、若い方々の参加が目立っていました。被害者を孤立させてはならない、との思いには強く共感します。圧倒的な非対称性の権力関係のもとで、ケアの現場とは、「非暴力を学ぶ」実践の現場である、という結語には、深い学びと気づきを頂きました。

ケアには、被害者が傷を癒す、という視点のみが強調されがちですが、リスクマネジメントとして、加害者が権力を濫用せず、抑制を学ぶ、という視点が必要だと改めて感じます。

## ◆ベグライテン セミナー・ケアの哲学入門講座 2018 第3回のご報告とご感想◆

【講師】永野 英子さん さん（東京衛生病院 牧師部長・チャプレン）

【テーマ】ケアの人間学 ～いのちを紡ぐ・ひとをつなぐ～ 終末期の患者に寄り添う～滞空～

【日時】日時：8月5日(日) 14:00～16:30 (13:30 開場)

【場所】文京シビックホール会議室 1+2(文京シビック 3F) 東京都文京区春日 1 - 16 - 21 文京区役所内

【参加費】 1,000 円 (学生/障害・生保のある人 500 円)

【主催】ベグライテン・ミシュカの森

★カウンセラーとして月に1回社会的に弱い立場にいる方々の相談を受けていますが、カウンセリングをしながら、とてつもない無力感を感じる事が何度もありました。何をどうしていいのか、どう言葉をかければいいのかかわからず、自分の未熟さ、無能さに腹が立っていましたが、本日、永田先生のお話を聞いて、私もまた間違いなく痛みを感じていたのだと思えました。学びとともに癒しの時間となりましたことに感謝いたします。ありがとうございました。荻窪に住んで4年間、東京衛生病院の名前は知っておりましたが、どのような病院なのかを初めて知りました。祈りを取り入れられている素晴らしい病院が身近にあることを嬉しく思います。

MF さん

★最近友人の週末に寄り添う機会があり、本日のお話で救われた思いです。逃げ出したいと思う自分がそこにいた事はそれでよかったのだとほっとした気持ちです。ありがとうございました。KS さん

★「滞空」と言う言葉を初めて知りました。痛みの中にいる人が「助けて」と勇気を出して言っている時に、答えも励ましも力にならない、さらに孤独感を強めてしまうことさえあると思います。その居心地の悪いところ、不安定なところに一緒にいると言うことの意義、相手の置かれた苦境から逃げ出したいくなるほどの痛み(スピリチュアルペイン)によって逃げたくなるほど大きな何かを受け取ったことがスピリチュアルケアにつながる、と言うのは、今関わっているグリーンケアのボランティアを続ける上で心に刻んでおきたいです。素晴らしいお話をありがとうございます。相手の力を信じること、自分の限界を知ること、そこに神様が働いてくださるのだと思います。亀山美津江さん

★宗教にこだわらないとても良い話でした。聖書の例示があつたりして具体的な話として聞けた。特に無力感と痛みにつながる話は、例示もあつて分かりやすかった。酒井正昭さん

★まだターミナルの経験が浅かった頃にヨブ記を利用して患者さんに「アドバイス」しようとして患者さんと思いがすれ違ってしまった経験を思い出しました。患者さんの為と思いながらも、きっと模範解答のような自分の着地点を求めていたのかと思います。私が思い悩み、悩んでいるときに一緒に痛んでくださる神、また神が悲しんでおられる時に少しでも分かち担いれればと思う私、この相互の霊的な交わりが祈りなのかなと思いました。どうしても日々の仕事は実務的になりがちですが、今一度、祈りを持って患者さんに係わらせていただく姿勢を見直してみようと思います。有り難うございました。日高賢さん

★私は昨年桜美林大学大学院の科目履修生として死生学を受講しました。その時に講師の先生からチャプレンの存在を教えて頂き、興味を持ちました。ちょうどアメリカで学校に乱入した事件が報道され、ニュースを見たら、ベストを着たチャプレンが映っていました。重大な事件が起きたときに、現場に駆けつける役割があるのを知り、自分も同じような仕事をしたいと考えました。.....本日初めて生でチャプレンのお話を聞いて、有意義な時間となりましたありがとうございます 佐々木昭夫さん

## ◆ベグライテン 憲法カフェのご報告◆

いまから5年前、「ナチスの手口に学べ」とは、憲法改訂へ向けて麻生副総理が発言した重大な内容です。その後の推移は、立憲主義を無視し、民主主義の土壌すら崩して、自公政権の多数のおごりにまかせて、彼らの目論見通りに違憲立法を、民意を蹴散らし次々に強行成立させてきました。では「ナチスの手口」とは何か？を学ぶ憲法カフェが下記日程で開催されました。ドイツ憲法（ドイツ連邦共和国基本法）はしばしば改定されている、とは改憲論者がよく使いますが、ドイツ憲法においても永久条項（1条から20条）として日本の9条のような平和条項や基本的人権条項のような基本条項は変えてはならないとしているし、現に変えられてはいない、ということを確認しました。第一次大戦後の民主的なワイマール憲法のもとで、なぜナチス（国家社会主義ドイツ労働者党）のような全体主義政党が、民主的な選挙制度を通して権力の座に就いたのか。そして「全権委任法」のような緊急事態法が通るようになっていったのか、を学ぶ貴重な時間でした。

### ベグライテン 第2期 第17回「憲法カフェ」

【テーマ】 ナチスの手口と緊急事態法

【日時】 2018年7月19日（木）（木）18:30—21:00 【場所】 東京法律事務所 1階会議室

【提題者】 岸 松江 弁護士(東京法律事務所) 森 正樹 さん(ベグライテン世話人)

【司会】 関根和彦さん(ベグライテン世話人) 【参加費】 1人500円+印刷代(100円程度)

## ◆グリーンサポートせたがや「サポコハウス」を訪問のご報告◆

グリーンサポートせたがやの「サポコハウス」は子どもや大人が集い、遊びやおしゃべりを通じて、自分のペースで自分の気持ちに触れられる時間を過ごせる場です。アメリカ・ポートランドにある「ダギーセンター」をモデルにした「サポコハウス」では、子どもや大人を対象にグリーンサポートプログラムや個別相談、コミュニティカフェを行なっています。「ミシュカの森」は、「グリーンサポートせたがや」主催の「サポコハウス見学会」に企画協力し、下記要領で実施しました。

こうした「共助」の場に、世田谷区の場合は、補助という形で行政からの支援があり、先進モデルとなるように事業者を応援してきました。私、ミシュカの森の入江杏も、世田谷区行政の「グリーンサポート検討委員」として、この団体の成長を眩しく見守っております。実際の運営は、ほとんどがボランティアさんの善意に支えられていることを目の当たりにしていますので、チャリティの一貫としての訪問を企画したところ、どちらの回も、様々な方面の方々がご参加くださり、大変盛会でした。心より御礼申し上げます。

【訪問日時】 ①第一回目 2018年8月12日(日)16時~18時(15時50分集合)

②第二回目 2018年8月25日(土)14時~16時(13時50分集合)

【集合】 現地集合 サポコハウス 世田谷区太子堂5-24-20-201 【参加費】 500円 【定員】 20名

【主催】 一般社団法人グリーンサポートせたがや 【協力】 ミシュカの森

## ★★ その他のカレンダー★★

◇東京YWCA講座「BC級戦犯を知っていますか？」◇

BC 級戦犯は、戦争指導者であった A 級戦犯と異なり、招集された兵隊や軍属などで、上官の命令に従って任務を果たしたことで、連合国側から戦犯と判定された人たちです。特に捕虜収容所で働いた人々に絞首刑や長期刑に処された例が多いのですが、劣悪な環境で過酷な労働をされた捕虜が顔見知りの下級兵士や軍属を訴えたためです。BC 級戦犯には日本の国策で採用された朝鮮半島出身者も大勢いましたが、この人たちは、何の補償も受けていません。BC 級戦犯を記念して建てられた”愛アガペーの像“が久し振りに東京駅丸の内広場に戻って来ました。この機会に、BC 級戦犯について学びましょう。

【日時】2018 年 9 月 13 日（木）13:30～15:30（開場 13:00）

【講師】内海愛子さん（著書「朝鮮人 BC 級戦犯の記録」「戦後補償から考える日本とアジア」他）

【場所】東京 YWCA 会館 217 号室 【定員】40 名 【参加費】1,000 円

【申し込み方法】事前申込をお願いします。お名前、電話番号を下記までお知らせください。

E メール [k-koretsune@tokyo.ywca.or.jp](mailto:k-koretsune@tokyo.ywca.or.jp) FAX03-3293-5570、TEL03-6895-5440

### ◇「暮らしのグリーフサポートみなと」主催 副島賢和先生講演会講演会◇

【日時】9 月 15 日（土）13 時 30 分～15 時

【場所】港区芝公園協働スペース 3 階 港区芝公園二丁目 7 番 3 号 芝公園保育園 3 階

【テーマ】こころの声と言葉になる 涙も笑いも、力になる

【講師】副島賢和先生 公立小学校教諭として 25 年間、東京都内に勤務。2001 年東京学芸大学大学院修了。

品川区立清水台小学校赴任。2006 年より「さいかち学級」担任。2014 年 4 月より昭和大学大学院保健医療学研究科准教授として「さいかち学級」を担当。学校心理士。

【参加費】1000 円 【申し込み方法】[info@griefminato.org](mailto:info@griefminato.org)

### ◇平和カフォーラム 2018 第 8 回「表現の自由を守るために」◇

【タイトル】平和カフォーラム 2018 「憲法再入門ー立憲主義を取り戻すために」

【日時】2018 年 9 月 15 日（土）14:00～17:00

【場所】IKE・Biz 多目的ホール（としま産業振興会館、旧豊島勤労福祉会館）

【講師】前田朗さん（東京造形大学教授、戦争犯罪論、刑事人権論）

【資料代】500 円 【主催】平和カフォーラム

【詳細 URL】[http://maeda-akira.blogspot.com/2018/07/blog-post\\_18.html](http://maeda-akira.blogspot.com/2018/07/blog-post_18.html)

### ◇映画「憲法を武器として 恵庭事件 知られざる 50 年目の真実」上映会◇

【タイトル】いま自衛隊と日本国憲法を問う

【日時】2018 年 9 月 15 日（土）13:30 開場 14:00～

【場所】文京区民センター 3A 会議室 【参加費】一般 ¥1000 学生 ¥500

「恵庭事件」北海道恵庭町、自衛隊島松演習場。近くで酪農を営む野崎牧場の兄弟が通信線を切断した。長年戦闘機や大砲の騒音被害を受け、牛の乳量が落ち、家族の健康が損なわれ、約束が守られなかったことからやむにやまれぬ実行使だった。国（検察）は自衛隊法 121 条「防衛の用に供する物」で起訴。自衛隊の公然化を国民に突き付けた。



「恵庭裁判」 恵庭裁判は札幌地方裁判所で、3年半、計40回の公判が開かれた。

被告と弁護団は自衛隊と自衛隊法は憲法第九条に違反すると主張。裁判所は1967年3月29日判決（辻三雄裁判長）にて「被告は無罪」としたが、自衛隊の憲法判断は回避し、「肩すかし判決」と言われた。

50年後の今、「自衛隊と日本国憲法」が問われることになった。

【詳細 URL】 映画：<http://eniwahanketsu50.com/movie.html>

## ◇前川喜平さんのお話を聞く会「憲法・教育 私たちの未来」◇

【日時】2018年9月15日（土）13時開場 13時30分開会

【会場】瀬谷公会堂ホール 横浜市瀬谷区二ツ橋町190

【チケット】前売り券 800円 当日券 999円 高校生以下 400円

チケット取扱：くまざわ書店（二俣川ジョイナステラス5F）・天一書房（瀬谷駅北口）

【主催】「前川喜平さんのお話を聞く会」実行委員会 【詳細 URL】<https://shiminmedia.com/event/40761>

## ◇憲法のおはなし「檻の中のライオン」◇

「檻の中のライオン」の著者によるわかりやすい憲法のおはなし。

権力者をライオン、憲法を檻にたとえた、わかりやすい話。関東付近で開催予定です。今後明細がわかるものが増えてくる予定です。ここでは小平のものだけご紹介します。他には福生、小平、東村山、都内では台東、新宿など。

【日時】2018年9月17日（月・祝）14時-16時30分

【場所】小平市立中央公民館 和室けやき 東京都小平市小川町2-1325

【参加費】小中学生無料 高校生200円 大人500円

（大人の方には資料 オリジナル憲法条文記載のクリアファイル付き）

【講師】椋大樹（はんどうたいき）弁護士

【持ち物】筆記用具キッズスペースあり。お子さん連れ大歓迎！

【申し込み・お問い合わせ】 [mminnade@gmail.com](mailto:mminnade@gmail.com)

お申込みは件名に「檻の中のライオン参加」としてお名前、ご連絡先、人数、お子様連れの有無、どちらでイベントを知ったかをお知らせください。

【主催】みんなで学ぼう会【協力】小平・地域協議会【協賛】憲法カフェ@なかまちテラス

【後援】小平市、小平市教育委員会 <https://www.facebook.com/events/1706947576055306/>

## ◇いのちをつなぎ 暮らしを守れ フクシマと共に 9.17 さようなら原発全国集会◇

【日時】2018年9月17日㊦敬老の日

【場所】代々木公園B地区（JR山手線「原宿駅」、地下鉄千代田線「明治神宮前駅」、千代田線「代々木公園駅」、小田急線「代々木八幡駅」）

【主催】「さようなら原発」一千万署名 市民の会

内橋克人 大江健三郎 落合恵子 鎌田慧 坂本龍一 澤地久枝 瀬戸内寂聴

【協力】戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

【連絡先】 さようなら原発 1000 万人アクション事務局

東京都千代田区神田駿河台 3-2-11 連合会館 1F 原水禁気付 TEL.03-5289-8224

Email : sayonara2nukes@gmail.com <http://sayonara-nukes.org/>

### ◇ 9・19 日比谷野音集会 ◇

【タイトル】 戦争法からまる 3 年、安倍 9 条改憲 NO !

沖縄・辺野古新基地建設阻止！ 9・19 日比谷野音集会

【日時】 2018 年 9 月 19 日 18:30～ 【会場】 日比谷野外音楽堂

【主催・共催】 戦争させない・9 条壊すな！総がかり行動実行委員会

基地の県内移設に反対する県民会議・「止めよう！辺野古埋め立て」国会包囲実行委員会

【詳細 URL】 <http://sogakari.com/?p=3756>

### ◇ 日本のお米がきえる!? ～種子法廃止で農業はどう変わるか～ ◇

【日時】 2018 年 9 月 22 日（土） 14 時～16 時 30 分

【場所】 若松地域センター 2 階・第 1 会議室 新宿区若松町 12-6

【講師】 鈴木宣弘さん（東京大学大学院教授） 【主催】 新宿女性九条の会

2018 年 4 月から『種子法廃止法』が施行されました。これにより、日本の農業が大きく変わることを知っていますか？安倍政権は【今だけ、カネだけ、自分だけ】の名のもとに、セットで成立した『農業競争力強化支援法』により、大企業のための農業改革を推進しようとしています。大企業が儲かり日本の農家が滅びる！日本の食糧危機をみつめてみます。

【チラシ URL】 [http://www.9jo-tokyo.jp/plus/sinjuku/shinjuku\\_josei180922.pdf](http://www.9jo-tokyo.jp/plus/sinjuku/shinjuku_josei180922.pdf)

### ◇ 映画「ミリキタニの猫《特別篇》」上映会とトークイベントのお知らせ ◇

芝公園にある東京都人権プラザ。下記日程で、映画 2 本の上映会とトークイベントが。私もお招き頂きました。トークは先日、「焔」で谷崎賞を受賞したばかりの星野智幸さんと、マサ・ヨシカワさんと。私も楽しみにしています、是非お越し下さい。

【日時】 2018 年 9 月 22 日（土曜日）午後 2 時 00 分から 5 時 00 分まで

【会場】 東京都人権プラザ 1 階 セミナールーム 【定員】 80 名（事前申込不要、当日先着順）

【トーク】 星野智幸（作家）／入江杏（作家・ミシュカの森主宰）

「ミリキタニの猫《特別篇》」のプロデューサー、マサ・ヨシカワがゲストとして来場します。

【上映作品】 「ミリキタニの猫《特別篇》」（2 本立て）

2001 年、ニューヨーク、ソーホーの街角に路上で猫をいつも描いている謎の東洋人がいた。たまたま通りかかったリンダ・ハッテンドーフはその猫の絵の愛らしさに惹かれて思わずその人に声をかける。それが 2 人の人生を大きく変えるきっかけになるとは知らずに…。その人の名はミリキタニ。絵画の巨匠だと言う。街角でひんぱんに会ううちに、年齢も、性別も、人種も異なる 2 人の間に奇妙な友情が芽生えていく。心優しいリンダとガンコでワガママなミリキタニ。対照的な 2 人のやりとりはユーモラスで笑ってしまうことも。そしてだんだんと猫の絵に隠されたミリキタニの過去が明らかになっていく。彼は日系人。 sacrament に

生まれ広島で育った。そんな日々のなかで突然、9・11テロ事件が起こる。崩れ落ちるワールド・トレード・センターはソーホーのすぐ近く。ミリキタニを心配したリンダは思いきった行動にでる。ヒステリックになるアメリカの世論をみて「前にも同じ事があった」とつぶやくミリキタニ。「生み出すべきものはアートだ！戦争じゃあない」

### ◇コミュニティカフェ「スペースナナ」講座 ◇

地域でゆるやかに支えあう場を作ろう 生き心地のよい新しいコミュニティのつくり方  
年齢、性別、国籍、障害のあるなしにかかわらず、誰もが安心して立ち寄り、元気になる場を地域で作り  
たいと、をオープンして7年半の月日が経ちました。多様な人たちがゆるやかに支えあえるような地域づ  
くりをめざして連続講座を毎年開き、2015年2月からは誰もが参加できるナナ食堂を月2回開いています。  
今年度は、地域でさまざまなかたちで〈生き心地のよい新しいコミュニティづくり〉に向けて様々な試みを  
している方たちをお呼びして8回の講座と1回の映画会を企画しました。  
お話の後、ゲストを交えて参加者同士の交流の時間をとり、場づくりを始めた方、始めたい方たちの情報や  
知恵の交換の場となることを願っています。

#### 【日程とタイトル・ゲスト】

- ◆第5回 9/23(日)「発達障害って何？ 共に暮らし働くことを考える」  
河村哉子さん・吉田朋子さん・中畝治子さん(障害児をもつ母たちのグループ「マザーズジャケット」)
- ◆第6回 10/27(土)「ひとりでないことを知ってほしい」林恭子さん(引きこもり女子会)
- ◆第7回 12/9(日)「親や親せき、近所の人、友人とは少し違った新しいコミュニティ」  
中泉里奈さん他(あらかわシングルマザーサポートネットワーク)
- ◆第8回 1月26日(土)映画上映会「夜間保育園を知っていますか」

### ◇第3回 沖縄の闘いに連帯するつどい◇

【日時】2018年9月24日(月・振替休日)12:30~16:40

【場所】埼玉会館・大ホール 埼玉県さいたま市浦和区高3-1-4 【入場料】1000円

【主催】沖縄の闘いに連帯する関東の会【後援】埼玉県反核医師の会 埼玉県民主医療機関連合会

### ◇横浜いのちの電話 「今一度、ボランティア活動の意味を問う」◇

【日時】2018年9月24日(祝)開場13:30(講演開始前に「横浜いのちの電話」の紹介があります)

【講師】山崎美貴子氏 【場所】開港記念館2階6号室 【参加費】無料 【定員】100名

### ◇◇「俳句界」10月号(文学の森)に入江杏のインタビューが掲載◇◇

9月25日発売の俳句雑誌に「グリーンケアと俳句」をテーマとしたインタビューが掲載されます。

私の句が生まれるきっかけは、自分が「ことば」、文学の力で慰められたように、他のご遺族へも少しでも慰めを届けられたら、という思いからでした。悲しい句、嬉しい句を詠んで共感してもらえる。それが心の救いになるときもある、と感じます。句会には「ミシュカの森」に通じる、交わり、コミュニケーション

の喜びがある、とお伝えしました。相手の思いを受け取り、そして差し出す、また受け取る。そうした交わりの喜びこそが、人を悲しみのどん底から救うのではないのでしょうか？今後のミシュカの森の活動の目標をインタビュアーに尋ねられて、「悲しみって悪いことですか？ 悲しみ=愛しみ 弱さの発信から つながっていける社会へ」というキーワードをお伝えしました。今年度のミシュカの森は「共感のコミュニティーを目指す」とお答えしています。今月号は加藤登紀子さんのインタビューなのですが、来月号は僭越にも私で、同じく8ページの特集ページになります。是非、ご笑覧ください。

## ◇東京大学大学院人文社会系研究科 2018年度後期 臨床死生学・倫理学研究会◇

【会場】 東京大学本郷キャンパス 法文2号館2階2番大教室

【日時】 開催時間：午後6時50分～午後8時30分 事前予約不要

\*2018年9月26日(水) 痛みをどう表現するか：身体・比喻・造形

池田 喬 明治大学 文学部哲学専攻 准教授

\*2018年10月17日(水) 精神科臨床におけるニューロエンハンスメント

榊原 英輔 東京大学医学部附属病院 精神神経科 助教

\*2018年11月14日(水) 認知症高齢者と看護職者のケアリングについて

小松 美砂 三重県立看護大学 看護学部 教授

\*2018年12月5日(水) 臨床宗教師の人材育成とその活動

大下 大圓 飛騨千光寺 住職、認定臨床宗教師、京都大学医学研究科非常勤講師

\*2019年1月16日(水) 『ケア』をやまと言葉で考える

竹内 整一 鎌倉女子大学教授、東京大学名誉教授

## ◇◇2018年度キリスト教婦人矯風会「平和を考えるつどい」◇◇

今年は第一部：初回平和を考えるつどいで大きな反響があった被爆直後の広島・長崎を撮影したジョー・オダネル氏の写真展(代表作：焼き場に立つ少年)、ジョー・オダネル氏写真集『トランクの中の日本』の一部朗読とアメージング・グレースなどの歌唱、第二部：「チェロの音色で平和と愛を」で東京交響楽団首席チェロ奏者の西谷牧人さんが、カザルス編「鳥の歌」などを演奏します。どうぞご参加ください。

【日時】 2018年9月28日(金) 午後1時30分～3時30分

【場所】 矯風会館 JR中央総武線大久保駅 北口下車徒歩1分 <http://kyofukai.jp/contacts>

【参加費】 チケット 前売り 1200円 会員 1000円 当日 1500円

【お問い合わせ】 矯風会事務局 03-3361-0934 後援：NPO 日本朗読文化協会

ちらしはこちら→ 9月28日平和を考えるつどい

<<http://kyofukai.jp/wp-content/uploads/2018/07/79f2dc0b6a0b9538e6e28951cccfc017.pdf>>

## ◇真生会館 土曜日講座「この国のかたちを考える現」講座◇

一人と人との関係性のなかで生きるために

【場所】 真生会館 〒160-0016 東京都新宿区信濃町33番地4 真生会館ビル



【アクセス】 JR 総武線信濃町駅改札を出て右側徒歩 1 分

【お申込み・お問い合わせ】 一般財団法人真生会館→ <http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp/>

電話 03-3351-7121 (受付代表・受付時間 10:00-16:45) ファックス 03-3358-9700

E-mail: [gakushu@catholic-shinseikaikan.or.jp](mailto:gakushu@catholic-shinseikaikan.or.jp)

【日時と講師・テーマ】 土曜日のいずれも時間は 13:30~15:30 です。

『地獄への道は善意で敷きつめられている』(英国のことわざ) 生きることの尊さ、愛おしさにおいて人は皆同じいのちの恵みに生かされています。

しかし、社会の問題に取り組み、対応する中で、弱い立場の人々の気持ちや、苦しみを深く理解し、考えているでしょうか。「上から目線」で人を支配するような社会システムのもと、過酷な現実の中で更に傷つけられる結果になっていないでしょうか。人と人が生かし合える関係性の中で生きるとは・・・、考え学んでみたいと思います。

- 9/29 生きる神と、ともに歩む —現実の中に神のみ心をたずね求めて— 澤田豊成 (聖パウロ修道会)
- 10/13 若者に希望はあるか? 山田昌弘 (中央大学文学部教授)
- 10/27 少年達と関わって ~少年院の現場から~ 小林誠 (少年院職員・医師)
- 11/10 看護の仕事はなぜつらい? —この国で病むこと老いることの大変さ 宮子あずさ (看護師・随筆家)
- 11/17 若年女性を取り巻く現状 橘ジュン (NPO 法人「Bond プロジェクト」代表)
- 12/8 事実を知り行動することの大切さ 渡辺周 (「ワセダクロニクル」編集長)

## ◇第 25 回 世界アルツハイマーデー記念講演会

### 認知症との暮らし、認知症の家族との暮らし◇

【日時】 2018 年 9 月 29 日 (土) 午後 1 時 30 分~3 時 30 分 (午後 1 時開場)

【場所】 新宿区立四谷区民ホール (〒160-8581 新宿区内藤町 87 番地)

【受講料】 無料 【定員】 450 名 (申込不要 先着順)

【参考 URL】 <http://www.alzheimer.or.jp/?p=12860>

### ◇生と死を考える会教養講座 生と死の現在とその奥行き◇

超高齢社会の中で可能な限り充実した高齢人生を過ごすために、今できることは何か、また自分のためだけでなく、周りの人のために、何が望まれているか、を考えてみます。

また、子どもたちがおかれている命の現場や自死の問題から、生きることを掘り下げてみます。この際、現代の医学・看護学をはじめ、文学や哲学、社会学や心理学などの知見を参考にしつつ学び、併せて、日本人が培ってきた死生観の現代的意義にも目を向けてみましょう。

[全各回 19:00~20:30 (受付 18:30~)] 定員、先着 30 名

2018 年 10 月 1 日(月) 【人は何故、自ら命を絶つのか (自死遺族支援の観点から)】

講師：藤井忠幸 氏 (自死遺族ケア団体全国ネット代表)

2018 年 10 月 22 日(月) 【子どもと『死』—心理臨床の現場から】

講師：磯邊 聡 氏 (千葉大学教育学部准教授・臨床心理士)

2018 年 11 月 5 日(月) 【精神科医療における高齢者ケアの課題】

講師：小山達也 氏（東京女子医科大学看護学部講師・看護師）

2018年11月19日(月) 【『永訣』の思想—詩人大岡信氏の遺産から学ぶ】

講師：田畑邦治 氏（白百合女子大学学長）

## ◇しながわチャイルドライン～第17期受け手・サポーター養成研修～◇

10/4～12/13(毎、木曜日) 19時～21時

【共催】NPO 法人しながわチャイルドライン立正大学心理学部臨床心理学科【共催】品川区・品川区教育委員会

- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| 1、開講式 チャイルドラインとは？     | 10月 4日             |
| 2、子どもの人権ワークショップ       | 10月11日             |
| 3、「聴くということ」           | 10月18日             |
| 4、子どもの貧困と児童虐待         | 10月25日【公開講座A】杉山春氏  |
| 5、仲間を知るワーク            | 11月 1日             |
| 6、子どもの心とからだの成長と「性」    | 11月 8日【公開講座B】岩室紳也氏 |
| 7、よみがえる子どもの輝く笑顔       | 11月15日             |
| 8、チャイルドラインであなたにできること  | 11月22日             |
| 9、ロールプレイ1～よりよく聴くについて～ | 11月29日             |
| 10、ロールプレイ2～電話で聴く体験～   | 12月 6日             |
| 11、今後の活動について 終了式      | 12月13日             |

【会場】立正大学11号館7階（1171・1173教室）…東京都品川区大崎4-2-16

【対象】しながわチャイルドラインの活動に興味にある18歳以上の方

公開講座A・Bはテーマに興味のある方

【定員及び費用】通し参加30名(一般6,000円 学生3000円) 公開講座、各80名(600円)

【申し込み方法】メールまたは往復ハガキに①希望講座（通し参加・公開講座A・公開講座B）②氏名 ③年齢  
④郵便番号、住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（PCへの返信の為）

【申し込み締切】2018年9月18日 公開講座は定員に達しない場合のみ当日会場受付、申込可

【申込&問合せ先】Tel&Fax 03-5462-2868 E-mail [scl17k@gmail.com](mailto:scl17k@gmail.com)  
<http://www.ris.ac.jp/access/shinagawa/>

## ◇上智大学グリーンケア研究所 「悲嘆」について学ぶ◇

全世界では、思いがけない大災害や事故、テロへの恐怖と不安、個人的には、愛する家族や親せき、恩人、友人との死別や別離の苦しみ悲しみ、また、各自にとって大事な仕事やペットを失くした方々の悲しみに共感し、ともに歩めるために公開講座を開きます。

【期間】2018年10月4日(木)～12月13日(木)全10回 午後6時45分～午後8時15分(90分)

【会場】上智大学四谷キャンパス 【応募期間】2018年9月19日(水)まで

【定員】250名(定員に達し次第締切り) 【受講料】24,000円

2018年10月4日(木) いのちの重さと悲嘆 高木 慶子 上智大学グリーンケア研究所 特任所長  
2018年10月11日(木) 日本人の死生観と看取 神 仁 臨床仏教研究所 上席研究員

- 2018年10月18日(木) 悲嘆とともに生きる—うたの力 島菌 進 上智大学グリーンケア研究所 所長  
 2018年10月25日(木) 慢性頭痛や脳疾患に伴う悲嘆について学ぼう  
 清水 俊彦 東京女子医科大学 脳神経外科 頭痛外来 客員教授
- 2018年11月8日(木) 人はなぜ薬物依存症になるのか  
 松本 俊彦 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部 部長
- 2018年11月15日(木) 我が国の緩和医療の現状と臨床スピリチュアルケア  
 水嶋 章郎 順天堂大学大学院医学研究科緩和医療学 教授
- 2018年11月22日(木) 人生を変える出逢いの力～闇から光へ～  
 五十嵐 弘志 NPO 法人マザーハウス 理事長
- 2018年11月29日(木) 悲しみを癒す力～マザー・テレサに学んだこと 片柳 弘史 イエズス会 司祭
- 2018年12月6日(木) 高木慶子との対談 「檜山節考」を演じて 坂本 スミ子 歌手・女優
- 2018年12月13日(木) 心をつなぐ言葉、歌、沈黙、身体 柳田 邦男 ノンフィクション作家

### ◇権力の中核に迫り、真実の報道を追究する 望月衣塑子講演会 in 練馬◇

練馬育ちのジャーナリスト望月衣塑子 思いのたけを語る！

【日時】2018年10月7日(日) 開場 18:15 開演: 18:45

【場所】練馬文化センター 小ホール 東京都練馬区練馬 1-17-37 【資料代】500円

第一部 望月衣塑子さん講演

第二部 パネルディスカッション「市民目線で民主主義を問う」

猿田佐世(弁護士) 望月衣塑子(記者) コーディネーター 永田浩三(武蔵大学教授)

【詳細 URL】 <https://shiminmedia.com/event/41162>

### ◇孤立が生む被害～障がい児者への性暴力を生まない社会へ～◇

発達障がい児者を対象とした調査を<しあわせなみだ>が2018年前半に実施し、32名中23名が何らかの性暴力を経験していることが明らかになりました。これだけ多くの割合で被害が生まれる背景にあったのは、障がい児者をめぐる「孤立」です。褒められる経験が少なく、仲間外れにされがちで、存在を無きものとされることもある障がい児者たちは、社会のなかで、つながりを持たず、疎外されがちです。

自分の特性が社会で認められないまま育った経験からくる「自己肯定感の低さ」は、不快なことにも笑顔で応え、声をかけられればついて行き、嫌なことがあっても抵抗できないという言動を生み出します。これが、性暴力に遭うリスクを高めています。障がいの有無に関わらず、あらゆる人々が包摂され、多様性が認められるために、私たち市民にできることは何か。対話を通じて考えます。

【登壇者】岩田 千亜紀さん(東洋大学社会学部社会福祉学科助教)

中野 宏美さん(NPO 法人しあわせなみだ代表)

【日時】2018年10月11日 18:30~21:00(開場 18:00)

【会場】文京シビックセンター 5階 会議室C (東京都文京区春日 1-16-21)

(丸ノ内線/南北線・後楽園駅1分、三田線/大江戸線・春日駅1分)

【参加費】一般1,000円/学生500円 ※当日受付にてお支払ください。

詳細は、次をご覧ください。 <http://socialjustice.jp/p/20181011/>

## ◇憲法再入門 日本国憲法と植民地主義◇

【タイトル】前田朗インタビュー講座 憲法再入門 第9回 日本国憲法と植民地主義

【日時】2018年10月13日(土) 14:00～(13:30開場)

【場所】新宿文化センター 第1会議室 新宿区新宿6-14-1 【資料代】500円

## ◇「コスタリカの奇跡」上映会(主催 富士国際旅行社)◇

【日時】10月24日(水) 18時～参加費 1000円 定員 各回25名(要予約)

11月28日(水) 18時～ 12月8日(土) 10時半～、14時～

【会場】(株)富士国際旅行社 新宿区新宿2-11-7 宮庭ビル4階

TEL 03-3357-3377 FAX 03-3357-3317

## ◇シンポジウム「いじめと向き合う」◇

【日時】2018年10月27日(土) 午後1時～4時30分 ※開場12時30分

【場所】三鷹市公会堂光のホール(三鷹市野崎1-1-1)

【プログラム】第1部 基調報告「弁護士のいじめに対する取組み～いじめ予防授業を中心に～」

弁護士 橋詰 穰 氏(多摩支部法教育に関する委員会)

第2部 インタビュー「いじめについて伝えたいメッセージ」

ゲスト 木根 尚登 氏(ミュージシャン)

第3部 パネルディスカッション「いじめ問題、どうやって克服する？」

木根 尚登 氏(ミュージシャン) 春名 風花 氏(声優・女優)

杉森 伸吉 氏(東京学芸大学教授) 東京都公立小学校長

【参加費】無料 【申込方法】事前予約不要。当日先着700名

※託児利用の場合は10月12日までに下記問い合わせ先までご連絡ください。

【問合せ先】東京三弁護士会多摩支部 TEL:042-548-3800

詳しくは、次をご覧ください。<https://www.toben.or.jp/news/2018/08/1027.html>

## ◇シンポジウム「子どもの貧困クエスト ～みんなの力をあつめて～」◇

—「子どもの貧困」。これが解決すべき課題であるという認識は、社会において広く共有されていると  
いって良いのではないのでしょうか。この問題の解決のためには、そもそも「貧困」とは何なのか、なぜ「子  
ども の貧困」が起こるのか。問題の本質を改めてとらえ直し、相互に協力し合って、解決のための道のり  
を歩むこ とがとても大切なことなのだと思います。

そのような思いから、本シンポジウムでは、貧困問題の研究者を講師に招き、貧困問題の本質や課題につ  
いてご講演頂くほか、行政担当者やジャーナリスト、そのほか現場で活動を行っている方々を招いての  
パネルディスカッションを行うこととしました。

みんなの知恵と力を合わせて、「子どもの貧困」を解決する冒険の旅にいっしょに出かけませんか？

【日時】11月10日(土) 14時～17時(13:30開場)



【場所】立川市女性総合センター アイムホール（定員196名） 立川市曙町2-36-2

【プログラム】第1部：基調講演「子どもの貧困って何だろう？」（予定）

講師：山野良一氏（沖縄大学人文学部教授）

第2部：パネルディスカッション「子どもの貧困解決への道」（予定）

【パネリスト】山野良一氏（沖縄大学人文学部教授）中塚久美子氏（朝日新聞大阪本社 生活文化部専門記者）

加藤雅江氏（杏林大学医学部附属病院 患者支援センター 医療ソーシャルワーカー）

青木真一郎氏（日野市健康福祉部セーフティネットコールセンター センター長）

権田真都氏（認定NPO法人育て上げネット 若年支援事業部 ユース・コーディネーター）

【コーディネーター】谷口太規氏（弁護士 東京弁護士会所属）

【入場料】無料、事前申し込み不要

【主催】東京弁護士会、第一東京弁護士会、第二東京弁護士会、東京三弁護士会多摩支部

【共催・後援】日本弁護士連合会／立川市、立川市教育委員会、立川市社会福祉協議会、日野市

【問合せ先】東京三弁護士会多摩支部事務局 TEL：042-548-3800

詳しくは、次をご覧ください。<https://www.toben.or.jp/news/2018/08/1110-2.html>

★★★編集後記★★★

## ◇ドキュメンタリー番組「ザ・フォーカス」◇

### 「沈黙を強いるもの」から「悲しみの水脈へ」

2018年9月2日の深夜にTBS系の「ドキュメンタリー番組「ザ・フォーカス」で、「ミシュカの森」と入江杏の活動が紹介されました。 <http://www.tbs.co.jp/jnn-thefocus/archive/20180902.html>  
番組は十数年に渡って折々に撮影された映像をまとめたもの。一番古い映像は2002年、まだメディアに顔も出せず、入江杏という名前もありませんでした。顔を出さずに、黒い服を来て、ハンカチを握り締めてインタビューに応じている私が映されています。最近の映像としては、昨年、細谷亮太先生をお迎えした慶應大学で開催の「ミシュカの森2017」のものから、港区の小学校の講演、今年の5月の「暮らしのグリーフサポートみなと」での「ファミリー死別カフェ」まで、笑顔を交えながらの私。16年間の折々の映像が、ディレクター自身のナレーションで、「沈黙を強いるもの」から「悲しみの水脈へ」というストーリーにまとめられています。

（番組ナレーションより抜粋）『泰子さん達一家を追悼して悲しみに思いを馳せる場としての「ミシュカの森」も、入江さんが自らグリーフケア、つまり悲しみや喪失感に対するケアについての学びを深めるとともにテーマが広がり、若松英輔さん、平野啓一郎さん、副島賢和さんなど様々な人がゲストスピーカーとして招かれてきました。サバイバーズ・ギルト、ディスエンフランチャイズト・グリーフ、環状島モデル。入江さんはそんな必ずしも一般的ではない用語を使いながら、悲しみと言うものを捉えようと試みます。その言葉遣いは同時に私たちメディアがそして世間がはめたがる犯罪被害者遺族と言う単一の色のフレームから逃れる働きもあるように思います。』

「沈黙を強いるメカニズム」の正体を探りつつ、自分の内面を見つめ、内発性に導かれて、多様な活動に至った今を描いて下さいました。この番組は、私にとっては母へのオマージュ。

キーワードとなる「沈黙を強いるもの」は、作家の星野智幸さんをお迎えした「ミシュカの森 2016」のタイトル「言葉の力～沈黙を強いるメカニズムに抗して」から引かれたものです。「沈黙を強いるもの」は、私にとっては母の存在でした。番組は、母のある一言が、私の中の怒りを呼び覚まし、声をあげていこうと決めたことを伝えてくれました。母との精神的離別を叶えることができた。スティグマの呪縛が解かれた瞬間です。外に開かれていくことで、悲しみの水脈に向かうことができたのは、結果的に母のおかげと言えるかもしれません。

深夜 30 分の枠の中で、様々な局面をご紹介くださったこの番組。悲しみは愛しみ、封じ込めなくていい、と多世代に語りかける様子を記録して頂きました。「黙っていた方がいい」という「沈黙を強いるもの」は、私たち一人一人の中にあります。「強いられている」と意識しなくても、内面化していて、簡単に悲しみを口の端にすることは出来ない、と感じます。勿論、表に出すことだけが大切なことではないと思っていますが、様々な側面から「沈黙を強いるもの」の正体を一緒に考えていくきっかけ作りができれば。深夜なのでオンエアをご覧になることは難しかったと思いますが、講演会などでご紹介したいです。

番組をご覧くださった山名泉さんがご感想を下さいました。ご紹介させていただきます。

「感想をひと言でいえば“すばらしい”放送でした。

#### ○沈黙を強いるメカニズム

入江さんが強調されていることですが、大事なことですね。自分が少数者でない、弱者ではない、と思おうとするばかりに、知らず知らずに多くの人達は「沈黙を強いている」のだと思っています。ぼくは非常に憶病なので、いつ少数者になるか、弱者になるか、とずっと思っています。ですから、人は生まれたからにはどんな人でも最大限（可能な限り）幸福を追求する権利があり、社会はそれをサポートすべきと、不幸な事件を知るたびに、このごろはより強く思うようになっています。

#### ○加害者によりそう

入江さんではありませんでしたが、これもすばらしいと思いました。昨今は、何か酷い事件があると、マスメディアは面白おかしくよりセンセーショナルに伝え、被害者感情によりそうふりをして<厳罰化>の旗振りをしています。被害者の遺族として厳しい感情は当然おありでしょうが<再び犯罪を犯してほしくない>そのために考えられた末のことと思ひ、全く頭が下がる思いです。

#### ○悲しみに沈んでいる人の話を聞く

これは<沈黙を強いるメカニズム>につながると思いますが、特に、こどもたちに話されたのはすばらしいことと思ひました。」

ご感想ありがとうございました。考えるきっかけになれば、と思っています。

「ミシュカの森」入江 杏（ベグライテン会報 編集担当）



★★★★

会報に関する連絡先：メールでは入江まで ANA71805@nifty.com

電話の場合：関根まで 090-9146-6667